

1972年~1976年
その他主な出来事

1972年
・通貨の切り替えによる「替わりショック」で物価急騰
・復帰後初の県知事に屋良朝苗氏

1973年
・石油危機、物価値上げ
・沖縄特別国体(若夏国体)が開催

1974年
・小祿の幼稚園で不発弾爆発
・沖縄市誕生
(コザ市と美里村合併)

1975年
・皇太子ご夫妻初来沖
・第18泰久丸の遭難事故で8人が行方不明に

1976年
・屋良朝苗知事により与那城島の石油備蓄基地(CTS)のタンク設置申請を許可
・平良幸市知事が就任。

県民に希望と元気を与えてくれました!



具志堅用高氏銅像(石垣港離島ターミナル)



平和の広場(平和祈念公園)に灯る「平和の火」(6月23日)

開かれる世界のトビラ!
沖縄国際海洋博が開幕

沖縄の日本復帰を記念し、「海—その望ましい未来」を掲げて沖縄国際海洋博覧会が、本部町で開幕しました。場内は「海に親しむ」をテーマに、多くの来場者を楽しませました。



展示施設 人工島「アクアポリス」 那覇市歴史博物館提供

1976年

沖縄初の快挙!
伝説はここから始まった

具志堅用高氏が
世界チャンピオンに

10月10日に甲府(山梨県)で開催されたジュニアフライ級タイトルマッチで、沖縄出身の具志堅用高氏がチャンピオンのファン・グスマンを7回でKO。当時のボクシング界では、日本唯一の王者に輝き、その後、日本人男子世界王者としては最多記録となる13度にわたる王座防衛を果たしました。

ここがポイント

県出身のボクシング選手は、伊差川三郎氏(神戸拳闘会)など戦前から存在しました。しかし、日本人が世界王者となるのは戦後からです。



島の未来を担う、次世代の「ものづくり」

琉球ガラス村の「mado」シリーズ

車社会の沖縄では、ボディやタイヤを含め車体の再資源化率は約9割ですが、残り1割に含まれる窓ガラスは、どうしても再生不可能でした。そこで琉球ガラス村と県内最大手の総合リサイクル業者・拓南商事が手を組み、サステナブルな時代にふさわしい、美しいガラスの器が誕生

しました。もともと琉球ガラスは戦後の物資不足の時代、廃ガラスを再利用して作られてきた歴史を持ちます。当時行われていたことを、今の時代に即したスタイルによって生まれた「mado」シリーズは、次世代のものづくりを担う新たな取り組みといえるでしょう。



【問い合わせ】
琉球ガラス村
住/糸満市福地169
営/9:00~18:00
(最新情報はSNSで)



HP

ワクチンについて知ろう!

ワクチン接種にご協力を!



沖縄復帰
50年を
振り返る

沖縄あんやたん
かんやたん



1972年~1976年編

2022年5月15日で沖縄が本土復帰して50年。復帰からの50年を毎号5年ごとに振り返り、主なニュースや出来事と共に紹介。その当時から知らない人は学びながら、その当時を知る人は「あんやたん、かんやたん(ああだった、こうだった)」と懐かしみながらその時代を振り返ってみましょう!

協力:沖縄県立芸術大学芸術文化研究所 共同研究員 仲村顕

沖縄返還協定発効!
こうして「沖縄県」は
復活した!

1972年~1976年の間に沖縄で起きたニュースを振り返ったとき、真っ先に挙げられる最大の出来事は、1972年、米軍統治下にあった沖縄が日本に復帰したことでしょう。戦後27年ぶりに日本に戻った沖縄では、那覇市内で復帰記念式典が開催されました。復帰直後、通貨は使い慣れた「ドル」から「円」へ変わり、県民は戸惑いながらも新しい時代の幕開けに心躍らせた。さらに翌年には「沖縄特別国体(若夏国体)」が、1975年には「沖縄国際海洋博覧会」が開催され、全国から大きな注目を集めました。1972年の復帰からの5年間は、まさに「沖縄県」の始まりと言っても過言ではなく、県民が次世代に期待を寄せ、大いに湧いた時期と言えるでしょう。

1972年5月15日に沖縄返還協定が発効され、沖縄の施政権がアメリカから日本に返還。沖縄県が復活しました!



新沖縄県発足式典 那覇市歴史博物館提供

その日、沖縄が日本に戻った

沖縄返還協定発効、
沖縄県発足

アメリカ統治下にあった沖縄は、1972年5月15日、27年ぶりに施政権が日本に返還され、本土復帰しました。復帰に際しての「新沖縄県発足式典」は、同日15日に東京(日本武道館)と沖縄(那覇市民会館)の両会場で同時に行われ、午前10時30分に開会が宣言されました。

ここがポイント

沖縄返還協定は、沖縄県のまとめた「復帰措置に関する建議書」(屋良建議書)が提出される前に、国会で強行採決されたものでした。

ワクチン接種にご協力を!



ワクチンについて知ろう!